
謎色物語

Sorairo 光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

謎色物語

【Nコード】

N2831L

【作者名】

Sorairo 光

【あらすじ】

とある少女ととある人のお話。

「ごめんなさい」と少女は言った。
少女はスキップして小さく笑った。

「笑いたいのかい？」
と尋ねると少女は小さくうなずいた。

「世界が見えないの。」
と少女は言った。

ありのままを書き連ねて最後に染まった少女。

「もう一回見たいな。」
塗り潰されて見えなくなった目で彼女はつぶやいた。
彼女はありふれた女の子。
だけど、だからこそ特別な女の子。

「もう一回連れて行って。」
その先に見えるものがあると信じて道を突き進む。

「何がみたいの？」
震えだす体で、常に消えたくないと思ひ込まれたくないと思ひながら彼女は笑う。

「笑いたいの。」
作られた、綺麗な笑い方しかできなくなったその顔で、その声で少女は紡ぐ。

「自分をもう一度見てみたい。」
むかう先にそれが本当にあるのかはわからない。

「もう一回息を止めるの。」
少女は笑う。

「綺麗よりもその先にある何かがわかるから。」

「醜いかい？」
「綺麗が醜いからきつと綺麗だよ。」

始めただけのはじまりに終わらない終止符を彼女は付けた。

「もう一回見たいな。」

「消えるかもしれないけども？」

「今じゃないならそれでいい。」

「さらに辛くなっても？」

彼女は迷わなかった。

「今の自分から脱皮するの。」

少女はいつだって迷わなかった。

突き進む事だけを優先されて生きてきた。

「変わるために振り返る事を選ぶの、変わらないことを望んでるわけじゃないよ。」

少女は鼻歌を歌った。

「笑えそう？」

「うん。聞こえなくなるかもしれないけど、見えなくなるかもしれないけど。」

少女は力強く地面を踏んでいた。

「声を失うかもしれないけども？」

「消えるかもしれないけど。」

彼女は楽しそうに言った。

目的地に着いた。

そこはただ漠然としている荒れ地だった。

「変わらないなあ。」

「君みたいに？」

「私だけ。」

少女はそういいながら荒れ地に足を踏み入れて、走りだした。

苦しくて苦しくて倒れそうになるくらい走って、そのまま倒れた。泥だらけで、少女は目を閉じた。

「見える？」

「見えないけど見えるよ。感じるけど感じないよ。」

「何も？」

「何でもあるよ。」

少女は笑った。

乾いた笑い声で笑い続けた。

今までにないくらい汚い笑い方で。

「息ができなくなったら私をまた連れてってね。」
そう最後に少女は残した。

（後書き）

わざとこういう書き方にしてみたんですけど、最後がまとまりすぎた気がします。

読んでくださった読者の皆様、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2831/>

謎色物語

2010年10月11日04時50分発行